

ささやかだけど“キラッ”と輝く 地道な取組を学び合う「実践報告会」

近畿以西で最大の面積を持つ庄原市。先進地ではなく市内の取り組みから、派手ではなくても大切なポイントが見える事例を取り上げ、互いに学び合った報告会についてご紹介します。

ささやかだけど “キラッ”と輝く

地道な取組を学び合う 「実践報告会」

協議体（2層 20 圏域）を通じた地域の取り組みが進み始めたことから、それぞれの活動の大切さを再確認し、新たな活動につながる場となることをめざして開催しました。

ポイント

- 市内の事例にこだわり、身近に共感できる会にする。
- 取り組みの途上で良いので、“キラッ”と輝くような大切なポイントが見える事例を取り上げる。
- 「自分たちにもできる」と前向きな気持ちになれる。



【広島県庄原市】

■市面積	: 1,246.49 km ²
■総人口	: 35,241 人
■高齢者人口(率)	: 14,946 人 (42.4%)
■後期高齢者人口(率)	: 8,850 人 (25.1%)

<H31.3.31 住民基本台帳より>

**人口減少・高齢化が進む一方、
地域のつながりが強く、住民自治組織を
中心としたまちづくりが進む地域です！**

面積 ≧ 東京 23 区 または 琵琶湖の 2 倍

人口 ≧ 神宮球場の収容人数

※神宮球場：35,000人（マツダスタジアムの33,000人よりちょっと多い）

高齢化率は日本全国の50年先より上を行く

※国立社会保障・人口問題研究所の平成29年推計では2069年の日本は38%

地域の実践報告

キーワードは、「生活感」「手づくり感」「地元感」

地域の実践者と生活支援 Co. が一緒に登壇。会場から質疑・応援コメントを受ける時間もしっかり取りました！



マップ作りの作業中。日頃のつながりや災害時の声かけについて確認できました。

おぬか
小奴可地区

「防災と見守りのマップ」

防災をきっかけに、地域包括ケアや自助、互助について学習。みんなで「見守りマップ」づくりをすることで、地域のつながりが見える化。気になる世帯も確認し合うことで、普段の気かけ合いが広がった。平成 30 年 7 月豪雨の際には避難に役立った！

質疑・応援コメント

Q: 「つながりが無い人」はどうやって分かった？

A: 回覧板が回らない等、普段から皆が感じていたことだった。

【応援コメント】自分の地域が目指している事を形にされていて勇気をもらった！



協議体の会議。膝を突き合わせて色々な話をします。

そうりょう
総領地区

「協議体の立ち上がり」

自治会（3層）の取り組みを進める中で、より広い地域（2層）で課題を考える場が必要という声。そこから立ち上がった協議体は、言いたいことが言えるさくばらんな会に。「わいわい・がやがや」から課題解決の取り組みが進行中！

質疑・応援コメント

Q: ひとり暮らしの方の身内の連絡先はどのように把握する？

A: まずは隣家に聞く。会議で話題が出たら個人情報の扱いに注意する。

【応援コメント】地域の先々のことを考えて取り組まれていることが素晴らしい！



住民ワークショップの様子。ここから取り組みが広がりました。

みわた
峰田地区

「地域の声を集めて広がる輪」

住民自治組織が行ったワークショップの意見から、地域のよいところを生かすための住民アンケートを実施し、地域の現状を把握。協議体の取り組みでは横のつながりが意識されるようになり、「自分ごと」から「自分たちごと」に、地域の意識が変わってきた！

質疑・応援コメント

Q: アンケートを詳しく書いてもらうために工夫したことは？

A: 今取り組んでいることも掲載し、イメージしやすくした。

【応援コメント】地域の声を大切にする貴地区の後姿を見ながら、自分たちも頑張りたい！

充実した質疑と他地域からの応援コメントで、学び合いが深まり、やる気もアップしました！

展示コーナー

活動報告のポスターや、地域資源をまとめた冊子等の成果物を展示するコーナーを設け、7 地域 8 件の出展がありました。



この会を受けて、発表をした地域に問い合わせや講師依頼があるなど、地域同士で高め合う動きにつながっています！

広島県庄原市生活福祉部高齢者福祉課
第1層生活支援コーディネーター 上田 正之
生活支援体制整備事業担当 今村 俊洋

A 体制整備状況

③協議体の取り組みその他



いきがい
助け合い